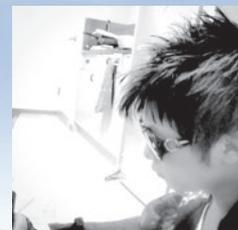


# Cultural Association System for International Organization

日本ではオリンピックに向けてのカジノ法案の話題がここ数年、話題になっている。さらに、このカジノ法案を賛成する人の数も年々増え、ついには、去年、可決されそうになったが、一部の反対により、決議の見送りが決定された。一方、本当に日本にカジノが必要なのか、意味はあるのか、ギャンブル依存症の加速につながるのでは？という声も数多く出されています。日本政府観光局によると、『2014年の訪日外客数は前年比29.4%増の1,341万4,000人となり、これまでの過去最高であった2013年の1,036万人を300万人余り上回った。』とあります。このままのペースでいくと、2020年の東京オリンピックまで右肩上がりになっていくと考えることもできます。しかし、政府が目指しているのはオリンピックまでに2,000万人、その10年後には3,000万人という数値です。その上でカジノは海外からの収益を求めて提案されています。



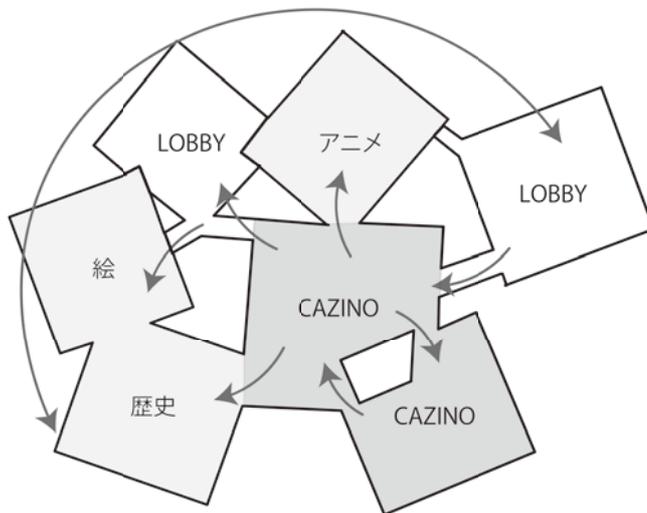
板谷和幸  
八尾研究室



1414015 板谷 和幸

## 設計趣旨

「本来あるべき、日本のカジノ」とは「国際的組織化のための文化的連携のシステム」であるべきと考える。カジノ＝ギャンブルという概念を変えて、日本の文化、伝統、をカジノというゲームを通して知ってもらう。それに商業施設や宿泊施設も関連付け国際交流の場としての施設を提案し、設計していきます。



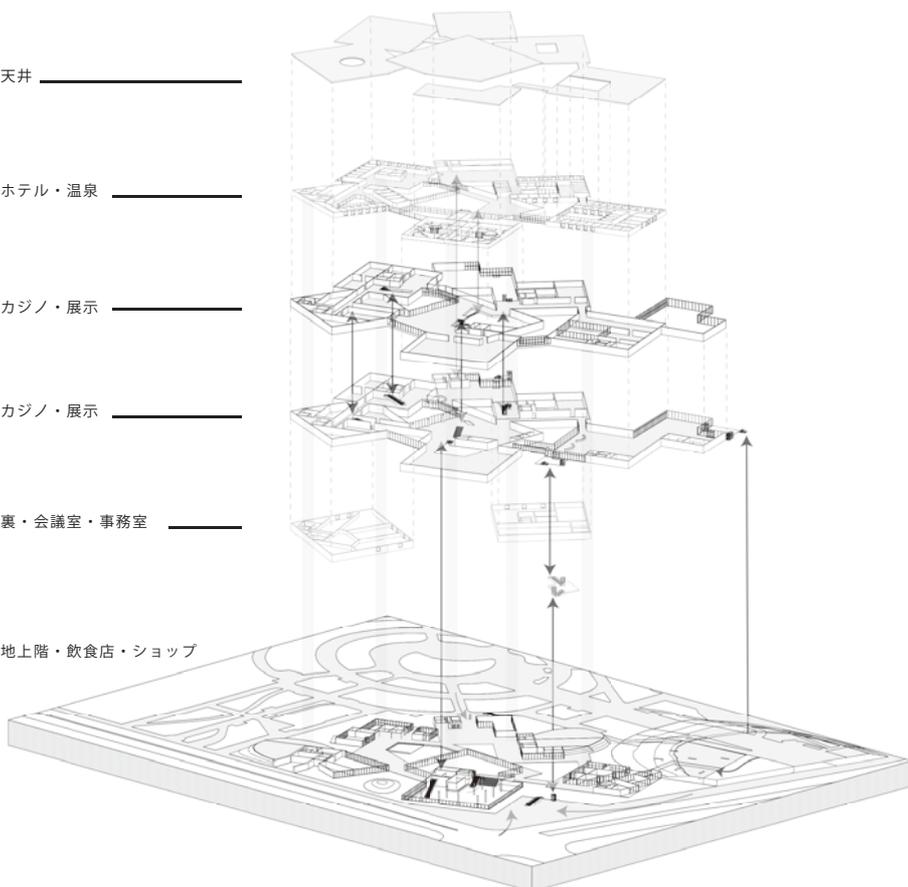
## プログラム

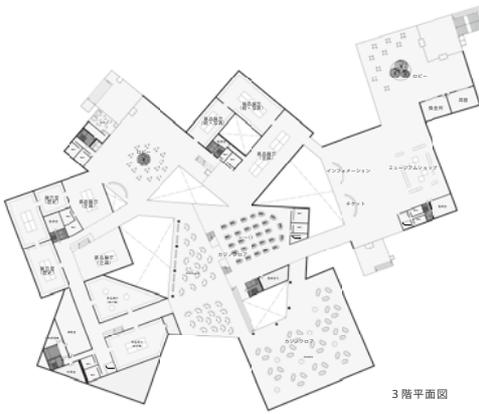
カジノ法案が可決された場合、本当に日本にカジノが必要なのか、カジノを日本に造って本当に意味はあるのかどうかを実際にカジノで失敗した国がなぜ失敗したのか、失敗例をもとに考え、カジノ否定派として、いくら豪華なカジノを造ったとしても衰退していくという未来を想定した上で、「本来あるべき日本のカジノとはなんなのか」を考えます。

## デザイン

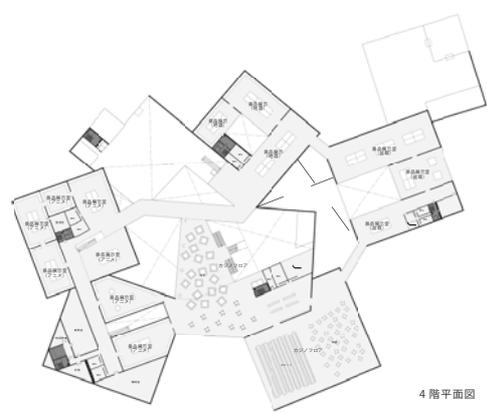
景品展示室を伝統・文化系の静な空間とアニメや娯楽といった動の空間に分け、カジノを中心として自分の趣味思考にあった景品を選ぶべく、カジノフロアを中心とし全ての景品展示室に直接アクセスできるようなカジノを設計。それを外からも感じられるような外観を形造りました。この設計での大きな目的は日本の文化をより多くの外国の方に知ってもらい、日本人と外国人の交流を目的としています。

- 6階：天井
- 5階：ホテル・温泉
- 4階：カジノ・展示
- 3階：カジノ・展示
- 2階：裏・会議室・事務室
- 1階：地上階・飲食店・ショップ

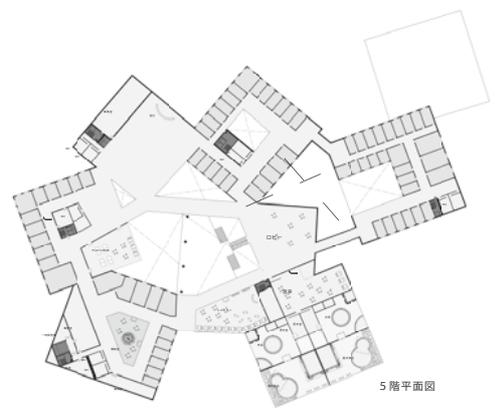




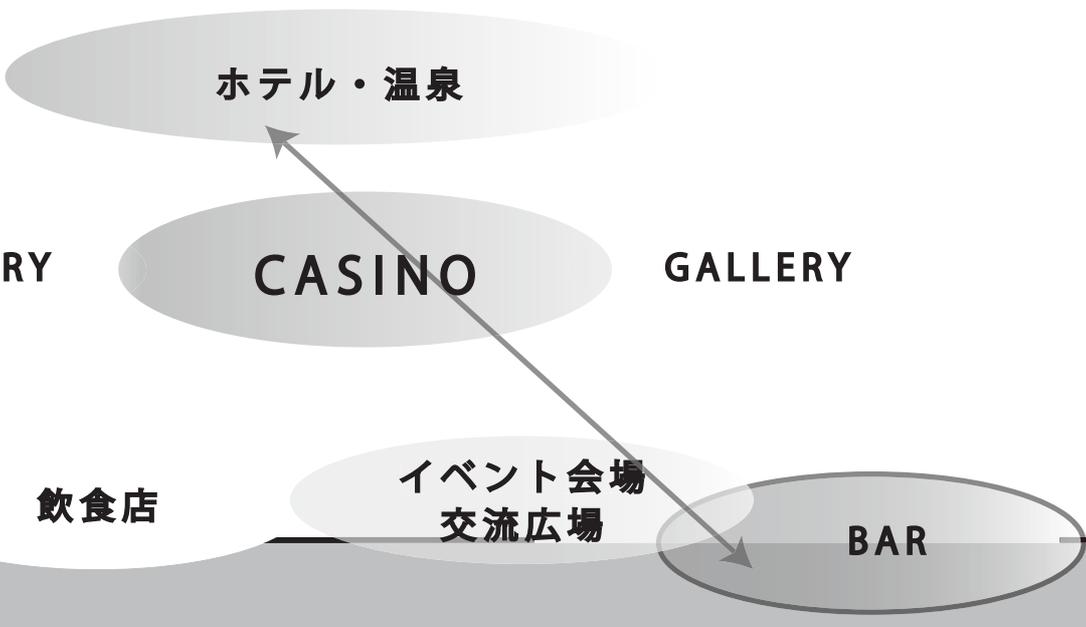
3階平面図



4階平面図



5階平面図



- 07.000 +
- 08 +10000
- 09 +11000
- 10 +12000
- 11 +13000
- 12 +14000
- 13 +15000
- 14 +16000
- 15 +17000
- 16 +18000
- 17 +19000
- 18 +20000